

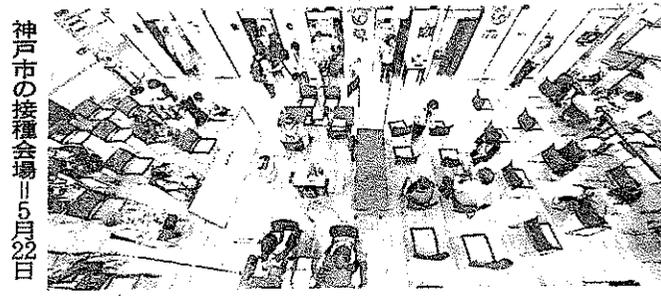
ワクチン在庫 自治体「ない」

新型コロナウイルスのワクチン接種の予約受け付けを止める自治体が相次ぐ中、ワクチンの在庫を巡る国の説明に一部の自治体が反発している。国は「4千万回分が自治体側にある」とするが、予約停止に追い込まれた自治体は「在庫なんてない」「国の説明は実態と乖離している」と訴える。

▼1面参照

「国からのワクチン供給 削減らす方針を表明した。量が限られている。国が接種能力を絞りなさいとおっしゃるので、それに見合う形で集団接種を停止する」。接種計画の見直しを12日に発表した大阪市の松井一朗市長は、会見でこう述べた。週30万、35万回接種できる態勢を整えていたという。「急いで接種態勢を整えなさい」というのが国からの通達だった。途中で職域接種の話もあったので、ワクチン量は十分あると理解していた」と不満を漏らした。

国は「全国の自治体に約4千万回分のファイザー製未接種ワクチンがある」との立場だ。河野太郎行政改革相は6日の会見で、ワクチン接種記録システム（VRS）で在庫が6週間分を超える自治体は配送量を1



神戸市の接種会場 5月22日

接種システム「実態と乖離」 国に反発「状況の聞き取りを」

これに基づく市の集計では、接種済み回数はVRSより多い72万回。また、1回目だけ接種を終えた高齢者の2回目として必要なワクチンが約23万回分ある。双方を足すと95万回となり、国の供給量と一致する。市は個別接種をする市内の全8000医療機関にヒアリングもしたが、大量の在庫はなかったという。市は約23万回分を「在庫」とは捉えていない。

市の担当者によると、VRSへの早めの入力を医療機関に呼びかけているが、操作が煩雑なうえ、国からの入力機器の配送が一部で遅れ、タイムラグが生じている。「VRSと実態にずれがある。高齢者の2回目用のワクチンも必要だ。状況を聞き取るなど、自治体ともっとコミュニケーションをとって進めて欲しい」。予約枠を絞った東京都世田谷区の保健展人区長は8日、ツイッターに「ワクチン失速の原因を、自治体や医療機関に滞留しているか

らだという無責任な論がある」と投稿した。「予約の一時停止や取り消しなど、各自自治体とも断腸の思いで住民に対応している。先月、高齢者促進をやったように、総務省を中心に全国の自治体に『余っていませんか』と電話してはどうか」と提案した。

京都市は新規予約の停止に追い込まれた。同市によると、ファイザー製ワクチンの供給は約97万回分、VRS上は約57万回が接種済み。しかし、VRSに現時点で反映しているのは自治体発行の接種券で接種した人のみだ。

供給されたワクチンは、約13万回分の医療従事者への接種の一部や、高齢者施設の仕事者（約2万8千回分）の接種にも使われた。市から医療機関への配送は1週間で10万回分に及ぶこともある。「ワクチンはおつかいの状態。在庫はあつたらうれしいが、ない」と担当者は話す。

（長富由希子、本多由佳）

官房長官「約4千万回分が未接種」

新型コロナウイルスのワクチン接種をめぐり、加藤勝信官房長官は12日の記者会見で、全国の自治体に約4千万回分の未接種の米ファイザー製ワクチンがあるとの考えを示した。供給不足の懸念から、自治体では新規予約の受け付け停止などが相次いでいるが、国は市中に十分な「在庫」があるとの考えだ。

加藤氏は自治体の接種で使うファイザー製について、「6月末までに輸入は1億回分（5千万人分）、そのうち約8800万回分は自治体に供給し、接種が行われたところは約4800万回だ」と説明。そのうえで、「差し引き約4千万回分は未接種の状況で、各自自治体、あるいは医療機関がお持ちになっている」と指摘した。それとは別に、

7～9月は毎月約2500万回分を自治体に配ること を改めて強調した。

全体の供給量について加藤氏は、「未接種のワクチンをうまく活用していたければ、1日120万回程度のペースで接種を続けていくことは十分に可能だ」との認識を示した。

また、加藤氏は、接種券がなくても実施できる米モデルナ社製のワクチンを使った企業や大学の職域接種だ。

「8月に入れば多くの自治体で接種券が発行される」として、政府が自治体の接種状況を一元管理するVRS（接種記録システム）への入力は進むと指摘した。

今後、政府はVRSに都道府県も接続できるようにし、接種回数などのデータを共有することで市区町村間の調整を進めたい考えだ。